研究概要

1. 研究主題について

(1) 研究主題

確かな力を育む主体的な学びのあり方~国語科におけるつながり合う学びの創造~

(2) 主題設定の理由



社会的な要請	学校教育目標	児童の実態
・ 予測困難で複雑な世界情勢	本校の教育目標	○活気ある港町の雰囲気の中で伸
・AIの発達による職業の変化	大きな夢を抱き,強い心を	び伸びと成長。社交的で明る
・想定を超える自然災害や事故	もって,自ら学ぶ子どもの育成	く,運動が好きな児童が多い。
\	↓	△学習態度が主体的とはいえな
・多様な立場の人と協働する力	(中心課題)・学力向上	い児童が多い。学力調査の結果
・主体的に学びに向かう意欲	・言葉磨き	は年度ごとの差が大きく,本校
・思考・判断・表現する力	・自主性の高揚	としての一貫性が見られない。

【本校の全国学力学習状況調査の結果】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
国語A	\triangle	Δ	▼
国語B	\triangle	Δ	▼
		(/ • • • • 全国亚均以上	▼ 全国亚梅以下)

(△・・・生国平均以上,▼・・・生国平均以下)

(3) 研究仮説

問題解決的な学習過程による授業づくりと言語活動を効果的に位置づけた単元づくりを行うことで、子どもが主体的に学びたいと感じる国語科学習指導を創造し、基礎的・基本的な知識や技能はもちろん、意欲や思考力・判断力・表現力を併せた「確かな力」を育成できるであろう。

(4) 研究の柱

- **柱1・問題解決的な学習過程の展開・・・**知識を教える授業から考え方を身につけさせる授業へ変える。
- 柱2・効果的な言語活動の充実・・・「ゴールの言語活動」を位置付け、主体的に学ぶ意欲を高める。
- 柱3・学力向上・・・主体的な学びの土台となる基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。

(5) 具体的な方策 (7つの「つながり合う学び」)

本年度の研究のキーワードはサブテーマに示した「つなぐ」。多様なつながりのある学びを目指す。

〈7つの「つながり合う学び」〉

- ① 社会とつなぐ・現在の学びが子どもの将来にどうつながるかを想定し、知識の汎用化を目指す。
- **② 教科をつなぐ・・**現在の学びと他教科とのつながりを明記する。(カリキュラム・マネジメント)
- ③ 活動とつなぐ・・現在の学びを言語活動とつなげる。思考力・判断力・表現力の育成を保証。
- ② 学習過程をつなぐ・・問題解決的な学習過程(4過程)をなめらかにつなげて授業を展開する。
- **⑤ 学力とつなぐ・・**現在の学びを確かな学力向上とつなげる。(重点表・ポイント・宿題の工夫等)
- ⑥ 言葉をつなぐ・・「ねりあげる」過程において、子どもの協働的(対話的)な問題解決へつなぐ。
- ⑦ 心をつなぐ・・・全員参加の問題解決的な学習過程を実現し、相互支持的な学級風土へつなぐ。

2. 研究構想のまとめ

【壱岐市教育努力目標】豊かな人間性と確かな学力を身に付けた子どもを育てる学校教育の実現

社会的な要請 学校教育目標 児童の実態 (研究主題)

確かな力を育む<u>主体的</u>な学びのあり方 〜国語科におけるつながり合う学びの創造〜

「確かな力」とは 学力+非認知能力ととらえる。

〇学力

「学力」には、様々な解釈がある。しかし、本校は公教育の立場から学校教育法(第30条)に規定されている「学力」を拠り所としている。

【学力の三要素】

①基礎的な知識及び技能

- →・汎用性のある「ポイント」を明確にした授業
 - ・学習タイム (キラキラタイム) の充実と活用
 - ・語彙力や国語への関心を高める掲示物の作成
- ②思考力・判断力・表現力などの能力
- ③主体的に学習に取り組む態度 (意欲)
- →・②③には問題解決的な学習と言語活動の充実が有効

〇非認知能力

数値として認知できる能力とは別に、粘り強さや丁寧 さ、社会性など、よりよく学ぶうえで必要な能力のこと。 特に「社会性」を高めること、つまり学級内に親和的な 人間関係を築くことと学力向上には大きな関係がある。

言葉磨き⇔仲間づくり(社会性)⇔学力向上

「問題解決的な学習」は社会性を身につけさせる学び方。

「主体的」とは

「進んで学ぶ子ども」ととらえる。

〈主体的に学ぶ子どもの姿〉

- ・夢をもち、目的をもって学ぶ。
- ・問題解決への意欲をもって学ぶ。
- ・自分なりに課題をとらえて学ぶ。
- ・自分なりの見通しをもって学ぶ。
- ・自分なりの考えをもって学ぶ。
- ・他者の意見を受け入れ、協働的に学ぶ。
- ・自分の生活に学びをつなげ、生かす。

問題解決的な学習(考え方・方法)

言語活動の充実(学びの必要感)

〈勝本の子どもたちの現状〉

- ・学びの意義を認識していない。
- ・問題解決への意欲をもとうとしない。
- だれかの課題で学ぼうとする。
- だれかの見通しで学ぼうとする。
- だれかの考えをもとに学ぼうとする。
- ・自分の考えだけで独善的に学ぼうとする。
- ・生活と学びをつなぐ意識が乏しい。

(研究仮説)

問題解決的な学習過程による授業づくりと言語活動を効果的に位置づけた単元づくりを行うことで、子どもが主体的に学びたいと感じる国語科学習指導を創造し、基礎的・基本的な知識や技能はもちろん、意欲や思考力・判断力・表現力を併せた「確かな力」を育成できるであろう。

- →本年度は、具体的には以下の二点に焦点を当て、授業仮説として研究授業の考察を行った。
- ①「ねりあげる」過程のあり方について ②「ふりかえる」過程(「つなげる」)のあり方について

(研究の柱)

問題解決的な学習 効果的な言語活動の充実 学力の向上

(具体的な方策)

7つの「つながり合う学び」・・・(社会・教科・活動・学習過程・学力・言葉・心) とつなぐ

3. 具体的な方策(7つの「つながり合う学び」) について

(1) 社会とつなぐ

未来を生きる子どもたちを育てることは、未来の社会を創造することだ。現在の学びが子どもの将来にどう役立つかを想定し、知識の**汎用化**を目指すことは、本研究の大きなねらいである。中教審答申(H28.12.21)にも「よりよい教育を通じて、よりよい社会を創る」という文言が示されており、学校と社会が連携、協働しながら「社会に開かれた教育課程」を実現することの重要性が述べられている。本研究でも、未来の創り手となる子どもに必要な知識や力は何なのかを考えながら単元づくり、授業づくりを行っている。日々の学びが教室や教科書で完結するのではなく、生活と結びつき、それを豊かにする体験を保証することで主体的に社会・世界と関わる意欲や人間性を育てることができると考える。

(1年生・帰りの会にて)日直によるインタビューのコーナー 「昼休みは何をしましたか?だれと?どこで?楽しかったですか?」

学校は子どもにとって小さな社会。「きいて しらせよう」(話すこと・聞くこと)の学びを生かし、毎日のインタビューを意欲的に行っている。

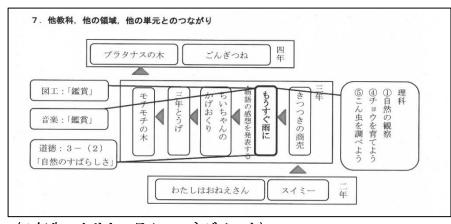


平成29年度全国学力学習状況調査「児童質問紙」

- (73)「**国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ**」に対する本校児童の回答
 - ◎ (当てはまる)・・・68.8% (〈平成28年度〉全国:57.9%, 長崎県:59.1%)

(2) 教科をつなぐ

本研究では、より効率的に学習効果を高めるために「カリキュラム・マネジメント」(教科横断的な教育課程の編成)を取り入れ、主体的な学び手の育成や学力向上を図っている。今年度はその第一歩として、研究対象である国語科を中心として、他教科・他領域との効果的なつながりを検討している。具体的には、国語科の指導案に「他教科、他の領域、他の単元とのつながり」という項目を設けている。



「カリキュラム・マネジメ

- ント」を示す価値や効果
- ・授業者が当該単元と他教 科・他領域・他単元との つながりを把握できる。
- ・必要に応じて他教科の単元等の実施時期を入れ替え、効果を集中させる。 ・学びの全体像をつかめる。

〈1 年生のカリキュラム・マネジメント〉



(学活「みんな仲良くなろう)



(国語:「きいてしらせよう」)

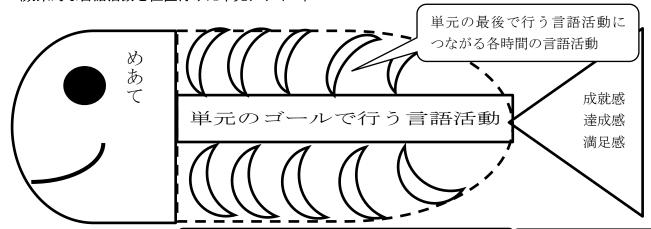


(児童会:「人権集会」)

(3) 活動とつなぐ

本研究では、子どもの主体性を高めるために「言語活動の充実」を柱の一つとしている。魅力的な言語活動を単元のゴールに位置付けることで、子どもたちは**相手意識・目的意識**をもって毎時間の学習に臨んでいる。また、「自分なら~」と考えることで思考力・判断力・表現力などを高めることができる。

〈効果的な言語活動を位置付けた単元デザイン〉



第一次	第二次	第三次
必要感をもつ過程	言葉の力を高める過程	達成感を得る過程
活動のめあてをもつ。	・基本的な知識・技能を中心に言葉の力を高める。	・言語活動を行う。

〈言語活動の実践例〉

★魅力的な言語活動とは、「①誰かの役に立つ」or「②楽しい」活動

	**** * *******	
	教 材	言 語 活 動 ▼
1年生	「じどうしゃくらべ」	のりものずかんをつくろう。
2年生	「おもちゃの作り方」	1年生にプレゼントするせつめい書を書こう。
3年生	「もうすぐ雨に」	「もうすぐ雨に」の感想交流会(雨トーク)を開こう。
4年生	「アップとルーズで伝える」	3年生のためにクラブ活動の紹介リーフレットを作ろう。
5年生	「100年後のふるさとを守る」	あなたの悩み解決します。~偉人相談室~
6年生	「森へ」	「『森へ』すごろく」を作って、読書の世界を広げよう。





(**つなげる**: 今日の学びを生かして校長先生にインタビュー)

~10分間を「つなげる」過程としている。 「つなげる」では、本時の学びを言語活動に つなげる活動を行う。第二次においても、言 語活動とのつながりを明確にする場を設ける ことで、子どもたちの意識と意欲が途切れる ことなく、単元を貫くことができるようにし、 思考力・判断力・表現力を養っている。

本校では、授業時間(45分間)の終末の5

★「つなげる」過程に関する意識調査

しつもん	0	0	Δ	×
「つなげる」では、学習してわかったことを使って、新しい問題や活動 に取り組んでいる	66%	28%	6%	0%
「つなげる」の学習は楽しい	69%	24%	6%	1%

(「校内アンケート」平成29年7月実施)

(4) 学習過程をつなぐ

「学習のし方」(本校の実態に応じた「問題解決的な学習過程」)を以下のように作成し、実践している。

学習	過程	学習活動	勝本小なりの工夫や取り組み
	課	1. 学習問題などを知る	国語科における学習問題を単元のゴールで行う言語活動とし、
っ	IIX.	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	「 めあて 」として表記する。ここでは,「めあて」の確認を行う。
カュ	題	2. 自分なりの課題を考	本時の課題設定は,事前に立てた「 学習計画 」によるものとす
	把	える	る。ただし, 視覚に訴える手立て などを行い,子どもの意欲を喚
む	握	3. 本時の課題を考える	起したうえで課題を確認させるようにする。
	<i>)</i> Æ	4. 課題をつかむ	課題の文言を「?」で終わらせる。→「ねりあげる」に関連。
,	ŀ	5. 課題解決の方法や結	見通しには「 結果(=予想) 」,「 方法 」,「 考え方 」の三種類が
し	自	果の見通しを立てる。	あることを知らせ、課題に応じて必要な見通しをもたせる。特に、
5	力	6 日活した※字) △ 5	「方法」の見通しについては、これまでの「方法」を蓄積したり、
ベ	解	6.見通しを発表し合う。	全校で一覧表を作成したりするなどして、効率化を図る。
る	決	7. 自分で決めた方法で	一人調べの間は、しゃべらずに自分の力で活動することを徹底
٦		一人調べ。(自力解決)	する。教師は、個別支援を行ったり指名計画を立てたりする。
ね	+ -1- 1	8. 調べた結果を発表し、	「ねりあげる」過程をよりよいものにするための基本的な展開。
りあ	協働	相互に深め合う。	「広げる」or「集める」→中心発問→「深める」(深い学び)
げ	解決	9. 本時の課題を解決し,	子どもの言葉で「まとめ」させる。2,3人の発表により全体
る	1/	まとめる。	の「まとめ」を示すが、それぞれの考えのよさも認める。
\$	自	10. 解決過程や結果のよさを	今日の学習のポイントを生かし、ゴールの言語活動や練習問題
り	己	味わう学習活動をする。	に「 つなげる 」。
かえ	評	11. 自己の課題解決の経過を	「課題」、「見通し」、「まとめ」が自分の力で書けたかを記録する。
る	価	ふり返り、次時に生かす。	特に「見通し」が適切であったかをふり返り、感想を述べ合う。

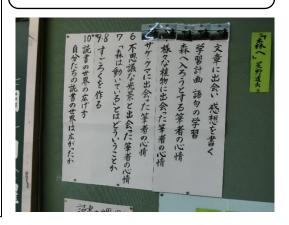
 \downarrow

★理想的な1単位時間(45分)の展開

	つ	かむ		,	しらべる)	ねりま	 あげる	ふりた	かえる
知る	自分で考える	全員で考える	つかむ	見通す	発表	調べる	検討	まとめ	つなげる	ふり返る
	5	5分		5	5分		10分	5分	5分	5分

学習 過程			学	習の	し方		
つかむ	3 2 1	書いたことを発表し、全体の課題を作る。自分なりの課題を書く。	いと課題	(めあて)	、全体の課	る。	を 。作 る & 🖁
しらべる	7 6 5	自分が考えた方法で、一人調べた自分が考えた見通しを発表する。見通し(方法や予想)を立てる。	考えた方法で、考えた見通しを	万.見.や 法.通.も で.担.	2011 4	調する。 べを	元表する。 元表する。
ねりあげる	9 8	今日の課題を解決し、まとめる。見つけて、みんなの考えをねりあげる。友だちの意見を聞き、似ている所や違う所を抜いたこと(自分の考え)を発表する。調べたこと(自分の考え)を発表する。	に きん の意見を	解決し、間かの者	まとめる。	のあげる所や表	る。 違う ずっ 所。る。
ふりかえる	(練習問題や言語活動に取っなげる。	(棟習問題や言語活動に取り組:今日の学びのポイントを他の学習に、	来写問に	題 ホ や イ 言 ン	(練習問題や言語活動に取り組む。)る。	に の 取 学 U 習	組にいい

授業中の学習の進め方がわかっている ②・・65% (校内アンケートより)



(全教室に掲示している「学習のし方」)

(学習計画)

(5) 学力とつなぐ

「学力向上」も本研究の大きな柱である。子どもたちに確かな学びの力を定着させるために、本校では、様々な手立てを講じている。特に次の三点は、単元づくり、授業づくりにも関わる取組である。

① 重点表の作成

	0 0	r	g	н		a l	E	L	н	н	0	P	g .	п	2	т (Y 1	Y .	x ·	r s	- AA	AB	AO	AD	AE	Æ
ı		_		4,					5,				6,		_		7月		_			書?	-		_		to
	平成29年度壱岐市立勝本小学校 第3学年 国語科教材別指導事項対応表	よく問いて、じこしょうかい	どきん	きつつきの商売	国語辞典のつかい方	漢字の音と訓	春の楽しみ	(コラム) きちんとせえるために(コラム) こそおど言葉	漢字の広場①	倉島で建保う こまを返しむ	俳句を楽しもう	enduly on a second	漢字の広場②		軽しみ 1	もうすぐ雨こ	6 L	漢字の広場の	į e	(0	産 の存 を 利美) :	「たて画」	手紙の書き方	「おれ」	一学期合計	1
時	数	1	1	9	2	2	2	5	2	9	1	14	2	1	2	6 5	5 :	2 5	1	1 .	1	2	2	2	2	82	2
話	すこと・聞くこと	1						4									T		Τ							5	
콾	くこと			1			2		2	1		13	2		2	Ę	5 :	2	Ι							30	
読	むこと		1	7						7				1		5	Т	4	Т		Т		Π			25	2
伝	統的な言語文化と国語の特質に関する事項			1	2	2		1		1	1	1		П	Т	1	Т	1	Т	1	1	2	2	2	2	22	
Γ.	#####********************************				П												Т		Т				П		П		
話す	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																T		T								
ź	BB 9 _ C ウ 相手を見たり、言葉の脚欄や独弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。																T		T								
ځ	聞くこと 工話しの中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすること。	0						0									1		T							0	
B#	超し合うこと プロいの考えの英語のや物面のと考え、可会や性味などの枚数を見たしながら、場合におって超し合うこと。																		T								
<	ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。							•									Т		Т						\neg		

1年間で全ての指導事項を計画的に指導するために横軸に学習指導要領の指導事項,縦軸に教科書教材を示したマトリックス表を作成(「**重点表**」)。1単元1指導事項を基本とすることで,ねらいが明確でシンプルな授業づくりができる。

② 「たいせつ」の一覧表作成

平成 28 年度勝本小学校

① 「いつも気をつけよう」・「たいせつ」一覧(話すこと・聞くこと)

話し合うとき ○だいじなことに気をつけて、話したり聞いたりする ○ていわいなことばづかいで話す。 ○話を聞いたら、しつもんをしたり、かんそうを言った りする ○じゅんじょに気をつけて話す。 【たいせつ】 はっぴょうするときには 【たいせつ】みんなで話し合ってきめる ○話すことのじゅんじょを考える。 ○話し合いをすすめる人をきめる。 【たいせつ】だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりする 年 ○みんなに聞こえる声で話す。 ○話し合うことをたしかめる。 ○だいじなことをなにかをかんがえて、話したり聞いたりする。 【たいせつ】分かりやすくはっぴょうする ○友だちの話を, さいごまで聞いてから話す。 ○「はじめ」「中」「おわり」のまとまりで、話 ○考えを話すときには、理由を言う。 すじゅんじょを考える。 〇分からないことは、しつもんする。 〇聞く人が、聞きとりやすい声の大きさやはや ○きめたことを、さいごにたしかめる。 さを考えて話す。 ○司会をする人決め、司会の進行にそって話し合う。 ○大事なこと(話の中心)を考えて話す。 ○話の中心に気をつけて聞く。 ○自分だったらと考えたり、自分の知っていることと ○さんかする人は、自分の考えとその理由を言う。 ○話の組み立てを考える 【たいせつ】話し合いにさんかするときは 【たいせつ】しりょうをもとに発表する。 【たいせつ】よい聞き手とは ○指名されてから話す。 ○話題をはっきりさせる。 ○自分の考えと、そう考えた理由を言う。 ○しりょうのどの部分から、何が分かったのかをは ○話の中心 (話し手がいちばん話したいこと) に気 ○友だちの意見と同じところ、ちがうところをはっ をつけて聞く。 つきりさせる。 三年 ○自分だったらどうかと考えたり、自分の知ってい きりさせて、意見を言う。 など ○聞き手にしりょうを見てもらうときは、そのため ることとつなげたりして聞く。 【たいせつ】司会をするときは の時間を取ったり、見てほしいところを指ししめし ○何について話し合うかと, 話し合う手順をたしか ○話し手が話したいことにそったしつもんやかん ○しりょうから分かることと、自分が思ったことや そうを言う ○他の人のしつもんやかんそうも、よく聞く。 ○発言する人を指名したり、順番を決めたりする。 考えたことを分けて話す。 ○ところどころで、意見をせいりする。

教科書の名で、 (単) を 作成に、 (単) のに、 (単) のに、 (単) のに、 (本) のに、 (本) のに、 (本) のに、 (本) のに、 (本) がに、 (本

③ 毎時間ごとの「宿題」(afterwork) 作成

授業後の宿題を作成。子どもの理解度を 測ることができる。適は 十分な子どもに存っている。 神習を行う。内に 神習を行う。内に なり、 にない を行うことで。 またで、 またで、 またで、 またで、 ないできる。 ないできる。

「家庭学習は忘れずに きちんとできている。」 ◎・72%, ○・21% (校内アンケート)

(6) 言葉をつなぐ

本研究の現在の大きな課題は、「ねりあげる」過程における子どもの「対話的な学び」のあり方である。「ねりあげる」 過程では、問題解決に向けて、子どもたちが一人調べの結果 を持ち寄り、対話的に深い学びへと至る姿が期待される。そ れは同時に主体的に学ぶ姿であり、本研究の最も大きなねら いである。しかし、数名の子どもの話し合いになったり、教 師が教えすぎてしまったりする場面が多い。そこで、「ねり あげる」過程を次のように規定し、「主体的・対話的で深い 学び」が実現できるように手立てを工夫し、実践している。



(「ねりあげる」過程の様子)

〈「ねりあげる」過程(15分)〉

「広げる」or「集める」

・「一人調べ」の結果を出し合う。



「深める」

- ・「中心発問」を受け、全員で話し合う。
- 話し合いを受け、「まとめ」を書く。

★「ねりあげる」過程では、教師の的確な状況判断をもとにした臨機応変な対応が求められる。

- ・必要に応じて、ペア学習やグループ学習などを行う。ただし、明確な意図と効果のある活動とする。
- ・必要に応じて、中心発問後に「揺さぶりの発問」、「確かめる発問」などを行い、思考を深めさせる。
- ・必要に応じて、本時の「ポイント」を示し、「まとめ」や言語活動に生かすことができるようにする。

平成29年度全国学力学習状況調查「児童質問紙」

(57)「**授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた**」に対する本校児童の回答 ◎ (当てはまる)・・・**75.0**% (〈平成 28 年度〉全国:45.2%, 長崎県:43.9%)

(7) 心をつなぐ

主体的な学び手を育てることを目的とした本研究のねらいは、数値として計測できる学力の向上だけではない。将来、多様な立場の人と協力できるように、その人間性を高めることも目指している。数年前は、普段の言動に荒々しさも目立った子どもたちだが、日々の授業の中で、協働して問題解決に臨む経験を重ねることで、一人一人の心に思いやりの心が育っている。「学校に行くのが楽しい」という子どもが増えていることは、その成果といえる。また、お互いの言葉に気をつけながら、よく聞き、よく話し合うことの積み重ねが、子どもたちに安心感を与え、学びへ向かう態度を意欲的なものにしている。



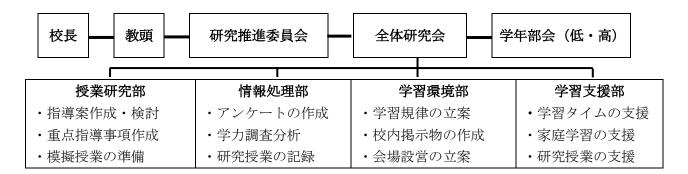




平成 29 年度全国学力学習状況調査「児童質問紙」

- (26)「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する本校児童の回答
 - ◎ (当てはまる)・・・75.0% (〈平成28年度〉全国:55.2%, 長崎県:56.2%)

4. 研究の組織



5. 年間計画

月	日	曜日	内容
4	3	月	・研究推進委員会 (研究構想検討,計画検討,基礎研究について)
4	4	火	・アクティビティ研修会(つながり合う学びの土台作り)
4	5	水	・授業研修会(模擬授業による学習過程の共通理解と検討)
4	1 2	水	・理論研修会(研究内容についての共通理解を図る)
5	2 4	水	・提案授業 (3年生) 指導案検討
5	3 1	水	・提案授業 (3年生) 模擬授業
6	9	金	・提案授業 (研究主任・3年生), 提案及び授業研究
6	2 1	水	・部会授業 (4年生) 指導案検討
6	2 7	火	・部会授業 (4年生) 及び授業研究
7	1 2	水	・本発表の準備(組織の再編と役割分担)
7	2 1	金	・全体授業(D日程発表分2本)指導案検討
8	9	水	・部会授業指導案検討(2本)
8	2 1	月	・研究発表会の準備
8	3 1	木	・各部の活動
9	2 0	水	・部会授業 (5年生) 及び授業研究 (1本)
1 0	4	水	・さくら学級実践授業参観(国語)
1 0	1 1	水	・初任研示範授業 (3年生), 分科会リハーサル
1 0	1 8	水	・全体授業(1・6年生)指導案検討
1 0	2 3	月	・1・6年生模擬授業
1 1	1	水	・紀要原稿とりまとめ
1 1	8	水	・全体授業指導案検討(2本),会場準備
1 1	1 5	水	・全体授業指導案検討(2本),会場準備
1 1	2 2	水	・研究発表会 (D 日程)
1 1	3 0	木	・部会授業(2年生,初任研公開授業を兼ねる)
1 2	1 3	水	・研究発表会のふり返り、まとめ作業
1 2	2 5	月	・研究推進委員会(2学期の反省と3学期の方向性)
2	1 4	水	・「研究のまとめ」作成,授業考察
2	2 8	水	・「研究のまとめ」作成、各部にて課題と成果
3	2 6	水	・まとめと反省、研究推進委員会(来年度の方向性)

※授業者は、事前に全体会もしくは学年部会において指導案検討を行い、1週間前に指導案を配布する。